

土山實男教授略歴

■ 生年月日

1950 年 6 月 24 日 福井県鯖江市生まれ

■ 学歴

1969 年 3 月 福井県立武生高等学校卒業

1973 年 3 月 青山学院大学法学部公法学科卒業

1979 年 5 月 ジョージ・ワシントン大学エリオット国際関係大学院修士課程
修了 (MA 取得)

1984 年 8 月 メリーランド州立大学大学院博士課程国際政治学専攻修了 (Ph.
D. 取得)

■ 職歴

1984 年 10 月 青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科 助手 (1986 年 3
月まで)

1986 年 4 月 青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科 専任講師 (1988
年 3 月まで)

1988 年 4 月 青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科 助教授 (1993 年
3 月まで)

1993 年 4 月 青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科 教授 (「国際政治
学」, 「国際安全保障論」) (2019 年 3 月まで)

1993 年 9 月 ハーバード大学ジョン M. オーリン戦略研究所 (Samuel P. Hun-
tington 所長) 客員研究員 (1994 年 8 月まで)

青山国際政経論集

- 2002年 4月 青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科主任（2004年3月まで）
- 2004年 4月 青山学院大学国際政治経済学部長（2008年3月まで）
- 2004年 4月 青山学院評議員（2011年12月まで）
- 2007年12月 青山学院大学副学長（2011年12月まで）

■ 所属学会

- 1984年10月 日本国際政治学会
- 1985年 7月 防衛学会（現、国際安全保障学会）
- 1985年10月 国際法学会
- 1992年 4月 International Studies Association

■ 研究・教育活動

- 1989年 青山学院大学総合研究所「米ソ関係の総合的研究」プロジェクト（1992年まで）
- 1991年 国際日本文化研究センター「交渉行動様式の国際比較」プロジェクト（1997年まで）
- 1993年4月 東京大学教養学部教養学科非常勤講師（「現代外交論」）（1993年7月まで）
- 1994年9月 平和・安全保障研究所「安全保障研究奨学プログラム」（現、「日米パートナーシップ・プログラム」）ディレクター（現在にいたる）
- 1995年 防衛庁（現、防衛省）防衛政策懇談会副座長（現在にいたる）
- 1995年 早稲田大学現代政治経済研究所「冷戦後の安全保障レジームに関するプロジェクト」（1999年まで）
- 1995年 海上自衛隊幹部学校講師（「対外政策」）（2018年まで）
- 1995年 NIRA（総合研究開発機構）「日本の安全保障に関する研究プロジェクト」（1998年まで）

土山實男教授略歴

- 1995年 青山学院大学総合研究所「冷戦後の国際政治学キーワードの再検討プロジェクト」(1997年まで)
- 1996年 防衛研修所(現、防衛研究所)講師(一般課程)(2002年まで)
- 1997年 国際日本文化研究センター「危機管理と予防外交プロジェクト」(2001年まで)
- 1998年 日本国際フォーラム・米ブルッキングス研究所「日本の国際貢献の国内的源泉プロジェクト」(2001年まで)
- 1998年 日本国際政治学会編集委員会副主任(2000年3月まで)
- 1999年 国際安全保障学会理事(現在にいたる)
- 2001年 平和・安全保障研究所理事(2011年まで)
- 2001年 統合幕僚学校講師(「危機管理」)(現在にいたる)
- 2001年 航空自衛隊幹部学校講師(「同盟論」)(現在にいたる)
- 2001年 防衛研究所防衛戦略研究会議委員(2013年まで)
- 2004年 日本国際政治学会評議員(2006年まで)
- 2005年 *International Relations of the Asia-Pacific* (日本国際政治学会), Executive Editor (2009年まで)
- 2007年 *The Korean Journal of Defense Analysis* (Korea Institute for Defense Analysis), Editorial Advisory Board (現在にいたる)
- 2008年 青山学院大学国際交流共同研究センター所長(2019年3月まで)
- 2011年 国際安全保障学会副会長(2017年まで)
- 2011年 平和・安全保障研究所研究委員(現在にいたる)
- 2018年 国際安全保障学会会長(現在にいたる)

■ 著訳書

- ・『安全保障の国際政治学——焦りと傲り 第2版』有斐閣, 2014年
- ・『日米同盟再考——知っておきたい100の論点』(西原正と共同監修) 亜紀書房, 2010年
- ・ *Institutionalizing Northeast Asia: Regional Steps towards Global Governance*

- (eds. with Martina Timmermann), United Nations University Press, 2008
- ・ *Japan in International Politics: The Foreign Policies of an Adaptive State* (eds. with Thomas U. Berger, Mike Mochizuki), Lynne Rienner Publishers, 2007
 - ・ 『安全保障の国際政治学——焦りと傲り 第1版』有斐閣, 2004年
 - ・ 『グローバル・ガバナンス——政府なき秩序の模索』(渡辺昭夫と共編), 東京大学出版会, 2001年
 - ・ 『日米関係キーワード』(増田弘と共編)有斐閣, 2001年
 - ・ 『安全保障の理論と政策』(編集)『国際政治』No. 117, 1998年
 - ・ 『日米同盟 Q&A100』(西原正と共編) 亜紀書房, 1998年
 - ・ 『秩序と混沌——冷戦後の世界』(永井陽之助と共編) 人間の科学社, 1993年
 - ・ 『核戦略と倫理』ジョセフ S. ナイ著・土山實男訳 同文館, 1988年

■ 分担執筆

- ・ 「安全保障と国際関係」原彬久編『国際関係学講義 第5版』, 有斐閣, 第6章, 2016年
- ・ 「21世紀に同盟は必要か」, 「日米同盟における同盟のディレンマとは何か」, 「日本の核武装は日米同盟を強化するか」, 「日米同盟の密約とは何か」, 「吉田ドクトリンの役目は終わったのか」, 「日米同盟は永遠に続くのか」など21項目, 西原正・土山實男監修『日米同盟再考——知っておきたい100の論点』亜紀書房, 2010年
- ・ “Do Alliance in Northeast Asia contribute to peace and stability? The US-Japan alliance in focus” Martina Timmermann and Jitsuo Tsuchiyama eds., *Institutionalizing Northeast Asia*, United Nations University Press, Chap. 7, 2008
- ・ “War Renunciation, Article 9, and Security Policy” Thomas U. Berger, Mike Mochizuki and, Jitsuo Tsuchiyama eds., *Japan in International Politics: The Foreign Policies of an Adaptive State*, Lynne Rienner Publishers, Chap. 3, 2007

- ・「不安の帝国アメリカの悩める安全保障」山本吉宣ほか編『アメリカ政治外交のアナトミー』国際書院, 第2章, 2006年
- ・「安全保障」, 「国際社会」, 「紛争解決」, 「強制外交」, 「政策決定」, 「ツキユディデス」など33項目, 猪口孝ほか編『国際政治事典』弘文堂, 2005年
- ・「グローバル・ガバナンス」など3項目, 国際法学会編『国際関係法辞典』, 三省堂, 2005年
- ・「日米同盟と日韓安全保障協力」大畠英樹・文正仁編『日韓国際政治学の新天地——安全保障と国際協力』慶應義塾大学出版会, 第4章, 2005年
- ・“Why Japan is Allied: Politics of the U.S.-Japan Alliance” Saori Katada, Hanns W. Maull, and Takashi Inoguchi eds., *Global Governance: Germany and Japan in the International System*, Ashgate, Chap. 4, 2004
- ・“From Balancing to Networking: Models of Regional Security in Asia” G. John Ikenberry and Takashi Inoguchi eds., *Reinventing the Alliance: U.S.-Japan Security Partnership in an Era of Change*, Palgrave Macmillan, Chap. 3, 2003
- ・「同盟政治」「核時代」「ジョージA.」など6項目, 川田侃・大畠英樹編『国際政治経済辞典(改訂版)』東京書籍, 2003年
- ・「セキュリティ・パラドックスに陥るアメリカ」木村汎ほか編『イラク戦争の衝撃』勉誠出版, 第1章, 2003年
- ・「危機管理の理論とその変容——冷戦からポスト・ポスト冷戦へ」木村汎編『国際危機学』世界思想社, 第1章, 2002年
- ・「冷戦後の国際政治と日米関係」増田弘・土山實男編『日米関係キーワード』有斐閣, 第5章, 2001年
- ・“Ironies in Japanese Defense and Disarmament Policy” Takashi Inoguchi and Purnendra Jain eds., *Japanese Foreign Policy Today*, Palgrave Macmillan, Chap. 8, 2000
- ・「アナーキー」, 「セキュリティ・ディレンマ」, 「核戦略」, 「拡大抑止」, 「現実主義」, 「信条体系」, 「先制核不使用」, 「同盟」, 「日米安保条約」, 「日米防衛

- 協力の指針」, 「非核三原則」, 「ペロポネソス戦争」, 「吉田ドクトリン」など
53 項目, 猪口孝ほか編『政治学事典』弘文堂, 2000 年
- ・「秩序とカオス——冷戦後の国際関係論」天児慧ほか編『アクセス国際関係論』日本経済評論社, 2000 年
 - ・「冷戦後の危機管理と日本——危機管理体制としての日米同盟の可能性」山本武彦編『国際安全保障の新展開』早稲田大学出版部, 第 1 章, 1999 年
 - ・「危機管理の失敗——パールハーバーへの道」木村汎編『国際交渉学』勁草書房, 第 4 章, 1998 年
 - ・“Lessons from the Future: When U.S.-Japan Alliance Ends” Young Seek Choue ed. *Global Visions, Toward the Next Millennium: Modern Civilization and Beyond*, The Graduate Institute of Peace Studies, Kyung Hee University, 1998
 - ・「同盟の終焉?—日米関係のゆくえ」猪口孝・P. グレヴィッチ・C. プリントン編『冷戦後の日米関係—国際制度の政治経済学』NTT 出版, 第 1 章, 1997 年
 - ・「安全保障と国際関係」原彬久編『国際関係学講義』(初版)有斐閣, 第 6 章, 1996 年
 - ・“The Role of Alliance in Post-Cold War East Asia: The Case of the U.S.-Japanese Alliance,” Tae-Hwan Kwak and Thomas L. Wilborn eds., *The U.S.-ROK Alliance in Transition*, Kyungnam University Press, Chap. 4, 1996
 - ・“The End of the Alliance?: Dilemmas in the U.S.-Japan Relations,” Peter Gourevitch et. al., *United States-Japan Relations and International Institutions After the Cold War*, Graduate School of International Relations and Pacific Affairs, University of California at San Diego, Chap. 1, 1995
 - ・「冷戦後の核抑止」永井陽之助・土山實男編『秩序と混沌——冷戦後の世界』人間の科学社, 第 4 章, 1993 年
 - ・「あいまいさの政治学」石川昭編『社会・人文系のためのあいまいとファジイ』, オーム社, 第 2 章, 1993 年

- ・「政策決定の心理学的アプローチ」白鳥令編『政策決定の理論』東海大学出版会，第4章，1990年
- ・「認知構造と外交政策」有賀貞ほか編『講座国際政治2 外交政策』東京大学出版会，第3章，1989年

■ 論文・論説

- ・“The Balance of Power in Korea, and Japan” *Japan Review*, Vol. 2, No. 4, 2019
- ・「近代日本の国際交流を考えるうえでの国際交流概念の整理」『日本の国際交流政策』（青山学院大学国際交流共同研究センター），2019年3月
- ・「朝鮮のバランス・オブ・パワーと日本」『国際問題』2018年4月号
- ・「なぜ今、抑止論か」『エア・パワー研究』（航空自衛隊幹部学校），第3号，2017
- ・「日米同盟における『忠誠と反逆』——同盟の相剋と安全保障ディレンマ」『国際問題』2015年9月号
- ・「国際政治理論から見た日本のリアリスト——永井陽之助，高坂正堯，そして若泉敬」『国際政治』No. 172（国際政治研究の先端10）2013年2月
- ・「国際政治学におけるカルチャーの理論的位置づけ——Richard N. Lebowの研究を中心に」『Peace and Culture』（青山学院大学国際交流共同研究センター），2012年3月
- ・「Peace and Culture を国際研究にどう取り込むか」『Peace and Culture』（青山学院大学国際交流共同研究センター），2009年3月
- ・“Japan’s Resistance Strategy in the U.S.-Japan Alliance,” *Challenge to America*, The Matthew Ridgway Center for International Security Studies, The University of Pittsburgh, 2006
- ・「セキュリティ・パラドックスの時代——9.11以降の国際安全保障をいかに考えるか」『国際安全保障』第30巻，第1-2合併号，2002年9月
- ・“Between Balance of Power and Community: the future of multilateral securi-

- ty cooperation in the Asia-Pacific” (with G. John Ikenberry), *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol. 2, No. 1, 2002
- ・「永井政治学の偉業を称えて——リアリズム国際政治学の本質」『青山国際政経論集』 No. 50, 2000年6月
 - ・「リアリズムの再構築は可能か——ツキュディデスと現代国際政治学」『国際政治』 No. 124 (国際政治理論の再構築) 2000年5月
 - ・「危機管理と日本」『政策研究』(NIRA) 1998年11月
 - ・「安全保障の終焉? ——不安と安全の政治学」『国際政治』 No. 117号 (安全保障の理論と政策) 1998年3月
 - ・「アナーキーという秩序——国際政治学におけるリアリスト理論とその批判」『国際法外交雑誌』 第96巻第3号, 1997年8月
 - ・「日米同盟の国際政治理論——リアリズム・リベラル制度論・コンストラクティヴィズム」『国際政治』 No. 115 (日米安保体制——持続と変容) 1997年5月
 - ・「危機管理の国際政治——再検討されるキューバ危機」『新防衛論集』 第23巻第2号, 1995年10月
 - ・「セキュリティ・ディレンマの国際政治理論」『国際政治』 No. 106 (システム変動期の国際協調) 1994年5月
 - ・「アライアンス・ディレンマと日本の同盟外交——日米同盟の終り?」『レヴァイアサン』 1993年10月
 - ・“Der Entwurf einer neuen internationalen Ordnung,” *Welt Trends*, No. 1, September 1993
 - ・“The New International Order and Japan,” *Security in Europe and North-East Asia-Pacific: Cross perspectives*, Les cahier de L’ifri, 1993
 - ・「あいまいさと外交政策決定」『青山国際政経論集』 No. 23, 1992年2月
 - ・“Politics of Burden Sharing: A Case of the U.S.-Japanese Alliance” 『青山国際政経論集』 No. 18, 1990年10月
 - ・“Changing U.S.-Soviet Relations and Japan’s Role” CIS Discussion Paper

A-3, 青山学院大学総合研究所, 1990年4月

- ・「抑止失敗の外交政策理論」『国際政治』No. 90 (転換期の核抑止と軍備管理) 1989年3月
- ・「日米間における同盟政策の相違——吉田茂とジョン・フォスター・ダレスのオペレーショナルコード比較」『日米関係の争点と総合安全保障』(世界情報サービス), 1988年6月
- ・“The Belief System and Foreign Policy Making: A Case Study”『青山国際政経論集』No. 8, 1987年11月
- ・「現代の安全保障と危機管理——日米同盟を考えるための新しい視角」『新防衛論集』第14巻第4号, 1987年3月
- ・「危機管理の外交政策理論——エンジニアリングの視点から」『青山国際政経論集』No. 6, 1986年11月
- ・“The Origins of U.S.-Japan Alliance: Three Levels of Analysis”『青山国際政経論集』No. 5, 1986年5月
- ・「アレキサンダー L. ジョージの外交政策理論——危機管理から危機防止へ」『国際政治』No. 82 (世界システム論) 1986年5月
- ・「国際危機研究の新展開——分析枠組とそのインプリケーションをめぐって」『青山国際政経論集』No. 4, 1985年11月
- ・「国際交流——平時の大国日本の生存条件」『国際交流』(国際交流基金) No. 34, 1983年1月
- ・“The Architect of Illusion: Operational Code of Yosuke Matsuoka and Japan’s Axis Policy,” *The Annals of Southeast Conference, The Association for Asian Studies*, Vol. VI, Dec. 1982

■ 対談・討論, 翻訳論文, 書評, 新聞論説・インタビュー

- ・「秩序揺らげば, 危うい同盟」朝日新聞 (オピニオン) 2019年11月15日
- ・(書評) Simon Reich and Richard N. Lebow, *Good-Bye Hegemony!: Power and Influence in the Global System*, Princeton University Press, 2014, *International*

Relations of the Asia-Pacific, Vol. 16, No. 1, 2016

- ・「現実的事例で議論を（集团的自衛権 私の意見）」『毎日新聞』2014年7月9日
- ・「誤認，誤算が招いた開戦（第一次世界大戦100年）」『読売新聞』（文化）2014年6月23日
- ・「作れる限り核抑止は続く」『毎日新聞』（オピニオン）2013年8月9日
- ・（書評論文）「現代国際政治学への挑戦——リチャード・ルボウのクラシカル・リアリズム」、『国際政治』No. 168（国際政治研究の先端9）2012年2月
- ・「国家目標を示し同盟を論じよ」『朝日新聞』（オピニオン）2011年1月6日
- ・「リアリズムを現代に問う——永井陽之助，高坂正堯，若泉敬を中心に」（対談）『毎日新聞』（文化）2011年1月6日
- ・“Japan must clarify goals, discuss roles of alliance” *Asahi Shimbun*, Feb. 26–27, 2011
- ・「同盟重視の現実主義」『東京新聞』（特報）2010年9月14日
- ・「日米安保重視」『東京新聞』（特報）2010年6月5日
- ・“Admitting worst-kept secrets all about timing?,” *The Japan Times*, Mar. 11, 2010
- ・“Japan, U.S. sign accord on forces,” *The Japan Times*, Feb. 18, 2009
- ・（書評）ジョン・ミアシャイマー著（奥山真司訳）『大国政治の悲劇』五月書房，2007年，『国際安全保障』第35巻第3号，2007年12月
- ・“Fuel to the Fire,” *Newsweek*, Nov. 29, 2004
- ・「日本外交の過誤について」（討論）『青山国際政経論集』No. 62, 2004年1月
- ・「抑止と危機管理——戦争の代理としての役割」『平和学がわかる』（アエラムック）朝日新聞社，2002年9月
- ・「グローバル・ガヴァナンスの理論」（オラン・ヤング著，土山實男訳）渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス——政府なき秩序の模索』東京大学出版会，2001年，第1章
- ・「安全——不安あおる無防備社会」『朝日新聞』（探検キーワード）1999年10月9日（夕刊）

- ・「安全保障論——なぜ安全保障が必要なのか」『新国際関係学がわかる』（アエラムック）朝日新聞社，1999年6月
- ・「危機とは幅広く想定を（ガイドライン法案 私の見方）」『朝日新聞』1997年4月11日
- ・（書評）「米国行動科学の本格的な応用」山本吉宣・田中明彦編『戦争と国際システム』東京大学出版会，1991年，『エコノミスト』（毎日新聞社）1992年7月21日号
- ・（書評）「今日の計量政治学の水準を示す」猪口孝『交渉・同盟・戦争——東アジアの国際政治』東京大学出版会，1990年，『エコノミスト』（毎日新聞社）1991年4月2日号

■ 論文・口頭発表

- ・「リアリズム・リベラリズムと安全保障研究の進展」，「国際政治学における『イズム』思考の再検討」（ラウンドテーブル）部会，日本国際政治学会研究大会，2018年11月3日
- ・「なぜ今、抑止論か」航空自衛隊幹部学校航空研究センターシンポジウム「抑止論の多面的検討」，2016年3月18日
- ・“Trust and Mistrust in Japan’s International Relations with the United States, Korea, and China,” VSIF Annual Conference 2014, Trust and Mistrust in Contemporary Japan, Japan-German Center Berlin, Berlin, Nov. 21–23, 2014
- ・「日本の国際政治学を考える——研究者は政策とどうかわるべきか」（ラウンドテーブル）部会，日本国際政治学会研究大会，2013年10月26日
- ・“Globalization and Japan’s Diplomatic Strategy,” Joint Symposium of Heinrich-Heine University and Aoyama Gakuin University, Dusseldorf, Sept. 22, 2011
- ・“Trust in International Relations,” Symposium of the Evolution of Trust: How Trust is Built up and Destroyed in Advanced Society, University of Cologne, Sept. 9, 2011

- ・ “How U.S.-Japan Alliance Adjusted to the Post-Cold War World,” China-ROK-Japan-U.S. Dialogue — Security, Interest, and Identity in the 21st Century, organized by Shanghai Institutes for International Studies and Pacific Forum CSIS, The Hong Qiao State Guesthouse Hotel, Shanghai, May 11–12, 2009
- ・ “Do Alliance Networks in Northeast Asia Contribute to Peace and Stability?,” Conference on Internationalizing Northeast Asia Project organized by United Nations University and Aoyama Gakuin University, Sept. 2005
- ・ “Japan’s Resistance Strategy in the U.S.-Japan Alliance,” Challenge to America Project, Graduate School of Public and International Affairs, The University of Pittsburgh, Sept. 11–12, 2004
- ・ 「安全保障概念の再構築」, 「武力行使の規範と 21 世紀の国際安全保障」(パネルディスカッション), 国際法学会春季研究大会, 2002 年 5 月 12 日
- ・ “The Alliance Strategy of Japan,” The Conference on the National Strategies of the Major Powers in the Post-Cold War Era of Globalization, Sejong Institute, Seoul, Oct. 30, 2001
- ・ “Ten Theories of Japan’s Alliance Behavior,” The Conference on New international Dialogue between Central Europe and Japan, organized by Diplomatic Academy and Bureau for Military Scientific Studies, National Defense Academy, Vienna, Sept. 24–25 2001
- ・ “Korean-Japanese Security Cooperation in the U.S.-Japan Alliance,” The Workshop for the Korean-Japanese Joint Research Project (The Japan-Korea Cultural Foundation) , Yonsei University, Seoul, Aug. 1–2, 2001
- ・ “Models of Regional Security in Asia,” The Workshop on the U.S.-Japan Alliance and Global Governance, United States-Japan Foundation, Tokyo, Dec. 4–5, 2000
- ・ “Why Japan is Allied: A Case of the U.S.-Japan Alliance,” The Atlantic Council, Washington D.C., Nov. 2–4, 2000

- ・ “Alliance in Japanese Foreign Policy,” ドイツ国際政治学会 (DVOW), 日本国際政治学会 (JAIR) 共催シンポジウム, 東京, Sept. 19–20, 2000
- ・ “Construction and Contradiction: Japan’s Security Policy and War Renunciation,” The Workshop on Domestic Sources of Japan’s International Contributions, The Brookings Institution, Washington D.C., Sept. 9–10, 1999
- ・ 「アナーキーとグローバル・ガヴァナンス」青山学院大学・国連大学共催「グローバル・ガヴァナンス国際会議」, 青山学院大学, 1998年10月31日～11月1日
- ・ “Ironies in Japanese Defense and Disarmament Policy,” Japan’s Foreign Policy and an Emerging World, 東京大学東洋文化研究所, 1998年10月
- ・ “Lessons from the Future: When the U.S.-Japan Alliance Ends,” The Graduate Institute of Peace, Kyung Hee University, Seoul, Sept. 24–26, 1998
- ・ 「国際政治学におけるアナーキーの意味——リアリストとその批判者たち」, 共通論題「現実主義と理想主義」, 日本政治学会研究大会, 北海道大学, 1996年10月5日～6日
- ・ “The Role of Alliance in the Post-Cold War East Asia: A Case of the U.S.-Japanese Alliance,” International Conference on the U.S.-ROK Alliance organized by the U.S. Army War College and Kyugnam University, Seoul, Oct. 5–7, 1995
- ・ 「危機管理のディレンマ：キューバ危機の再検討」, 防衛学会年次大会, 1995年7月
- ・ “Dilemma in the U.S.-Japan Alliance,” John M. Olin Institute for Strategic Studies Seminar, Harvard University, Apr. 25, 1994
- ・ “The U.S.-Japan Relations: the End of the Alliance?,” 国際文化会館主催ワークショップ, 下田, 1994年4月8日～11日
- ・ “The U.S.-Japanese Alliance after the Cold War: Japan’s Dilemma,” The Graduate School of Public and International Affairs, University of Pittsburgh, Feb. 25, 1994

- ・ “Japan’s Approach to International Security: Between Bilateralism and Multilateralism,” History, Culture and the Prospects of Multilateralism organized by York University and the University of Toronto, Fragrant Hills Hotel, Beijing, June 7–9, 1992
- ・ “A Sketch of the New International Order,” JIIA/IFRI Joint Research Program on Security in Europe and North-East Asia Pacific (Second Working Conference), Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin, June 4–5, 1992
- ・ “Can the U.S.-Japanese Alliance last out the Century?,” Council on World Affairs (Indiana), March 16, 1992
- ・ 「米ソ二極体制崩壊後の核抑止」, 青山学院大学総合研究所「米ソ関係の総合的研究」プロジェクト会議, 1992年1月
- ・ “The Role and Responsibilities of Japan in the International System: Burden-Sharing in the U.S.-Japanese Alliance,” Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin, Nov. 23–25, 1989
- ・ “Japan’s Role and Responsibility in International Security,” Aspen Institute Berlin, June 21–22, 1988
- ・ “The Gap in Alliance Policy between Japan and the United States,” 日米関係と総合安全保障研究シンポジウム, 国際文化会館, 1988年6月
- ・ 「クライシス・マネージメントの理論と政策」, 防衛学会春季研究大会, 1986年6月5日
- ・ “Internal Dimension of Asian Security: A Japanese Perspective,” Claremont McKenna College KECK Center for International and Strategic Studies, San Diego, California June 9–13, 1986
- ・ 「日米間における同盟政策の相違——吉田茂とジョン・フォスター・ダレスのオペレーショナルコード分析を手掛かりとして」日本国際政治学会創立30周年記念研究大会, 青山学院大学, 1985年10月18日
- ・ 「国際危機の管理と防止——アレキサンダー L. ジョージの外交政策理論を中心として」, 日本国際政治学会春季研究大会, 1985年5月19日

土山實男教授略歴

- “Japan’s Alliance Making: A Case of U.S.-Japan Security Treaty of 1951,” The Asian Studies on the Pacific Coast, Association for Asian Studies, University of Alaska at Fairbanks, June 24, 1983
- “A Comparative Analysis of Japanese Alliance Policy,” The Mid-Atlantic Region of the Association for Asian Studies, University of Pittsburgh, Oct. 23, 1982
- “The Architect of Illusion: Operational Code of Yosuke Matsuoka and Japan’s Axis Policy,” The Southeast Conference of the Association of Asian Studies, University of North Carolina at Chapel Hill, Jan. 22, 1982